

Weekly Report

ROTARY CLUB OF KONAN

2022-23



創立 / 1965年6月25日
例会日 / 毎週木曜日 PM12:30~
会場 / 江南商工会館1F 大ホール
江南市古知野町小金1-12
0587-54-8132

事務局 / 江南商工会館 別館1F
TEL / 0587-55-6554
FAX / 0587-59-7720
URL / <http://www.konan-rc.com/>
Mail / kouanrc@beach.ocn.ne.jp
会長 / 富永典夫 幹事 / 岩田進市 会報委員長 / 北畑祐三



2022年(令和4年) 8月25日(木) 雨 第2737回(当年度第6回)例会

点鐘
司会
ロータリーソング斉唱
四つのテスト唱和

会長 富永 典夫君
SAA 片平 博己君
「我等の生業」
田岡 剛君

— 言行はこれに照らしてから —

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

ゲスト及ビジター紹介



国際ロータリー第2760地区
東尾張分区 ガバナー補佐
武藤 栄司様



国際ロータリー第2760地区
地区副幹事
森田 乾嗣様



国際ロータリー第2760地区
東尾張分区 分区幹事
深石 公彦様



国際ロータリー第2760地区
地区スタッフ
二村 憲様

ようこそ江南ロータリークラブへ！

会長挨拶



日曜日に江南市国際交流協会の国際交流フェスティバルがあり、当日ご参加された皆様にはいかがでしたでしょうか。コロナの影響で規模が小さくなり大変残念に思いました。当日は、初めての試みとして日本語学習者によるスピーチ大会の審査員に岩田静夫パスト会長と共に選ばれました。なれない私には、点数付けに苦慮しましたが、次年度からは今回の経験を踏まえてすばらしいスピーチ大会になる予定です。また、8/23には社会福祉協議会の協力の下、子ども食堂が開催されましたが奉仕プロジェクト委員会の皆様、特に社会奉仕委員会の近藤委員長や波多野君には大変感謝しております。当日は多くのご家族の皆様にご喜ばれたものと思います。今の子どもたちを取り巻く環境は大変厳しいものがあります。貧困や虐待、孤立などといった課題を抱えたまま、子どもたちは助けを求められずいたり、環境を変えることをあきらめてしまったり、自分が置かれている状況の異常さに気づけていないケースさえあります。子供を取り巻く環境の変化に敏感にとらえ今後も活動していくことが大事であります。メンバーの皆様には両日は参加頂き感謝申し上げます。夏休みが終わりに近づいております。長い休みで、身も心もダレ切った状態から一気に戦闘モードに切り替えなくてはなりません。漠然とした不安や緊張、恐怖と言った感情が大きくなり逃げ出した

くなります。大人でも湧き上がる感情です。私も夏休みが終わるたび学校に行きたくないと思っておりましたが、それより、友達に会える、また放課後ドッチボールができる嬉しさが勝り休まずに行けました。不安を受け入れ抱えたまま動いてみる、子供の自殺が増えるのもこの時期ですが、動くことで気分が晴れて来ると言われます。不安を包み込む力が大人になって耐える力となります。これからも皆さんと共に子供たちの抱える問題に関心を持って考えていきたいと思えます。本日は東尾張分区ガバナー補佐訪問と言うことで、武藤栄司ガバナー補佐をお迎えしております。11時30分より会長幹事懇談会がありました。例会終了後、クラブ協議会が開催され、色々ご指導を頂きたく願います。

幹事報告 -別紙- 幹事 岩田 進市君

出席報告 委員 木本 寛君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
46名	32名	14名	76.19%

ニコボックス 委員 杵本 哲一君

○ガバナー補佐訪問に際して

ガバナー補佐 武藤 栄司様、地区副幹事 森田 乾嗣様、地区スタッフ 二村 憲様、東尾張分区幹事 深石 公彦様

○ガバナー補佐訪問、武藤栄司ガバナー補佐、森田地区副幹事をはじめ地区スタッフの皆様、ようこそ江南ロータリークラブへ！本日の卓話、よろしくお願致します。富永 典夫、南村 朋幸、岩田 進市、駒田 洋平

各君

○8月は奥様、息子様の誕生日。普段あまり顔を合わせてないのであらためての気持ちを込めて

田岡 剛君

○ガバナー補佐訪問 武藤栄司ガバナー補佐 ようこそ 江南ロータリークラブへ！本日の卓話よろしくお願致します。

伊藤 鶴吉、倉知 正憲、松岡 一成、庄田 元久、古田 嘉且、杉浦 賢二、沢田 昌久、片平 博己、岩田 静夫、猪子 明、長瀬 晴義、波多野 智章、中村 耕司

各君

卓話



国際ロータリー第2760地区東尾張分区
ガバナー補佐 武藤 栄司様

今期、東尾張分区のガバナー補佐をさせていただきます武藤栄司と申します。

簡単な自己紹介をさせていただきます。岩倉ロータリークラブ所属で区内最小クラブでもあり、ロータリアン歴は2012年1月入会の10年目と浅く、8分区のガバナー補佐の中で最年少の58歳と三拍子揃いの若輩者でございます。

出身校は愛知高等学校から愛知学院大学 商学部経営学科を昭和62年に卒業し、日産のディーラーにて3年間の営業職を経て25歳で、父が祖父より受け継いだ自転車販売修理業を自動車販売修理業へと昭和31年に転業をした、民間車検工場(有)岩栄自動車「代理店名:スズキアリーナ岩倉」に平成2年に入社し、平成24年に代表取締役役に就任し現在に至っており、自動車業界の仕事に就いてから36年になります。

仕事以外では「岩倉市消防団員」を今年3月の退団まで31年間、数多くの火災現場にて消化活動を経験しました。その中で、リフォームをして未だ2週間たらずの自宅の母屋が、隣家の火災延焼で、その消化活動にまさか自分が携わるとは思いもよりませんでした。消防職員や消防団員の仲間が一生懸命消化活動に励んでくれましたが、残念ながら母屋は全焼となってしまいました。私はその火事現場で、責任感だけでまるで他人事のように冷静に淡々と、消化ホースで消化活動をしていました。当時中学生だった娘の近所の友だちの男の子たちが、いつの間にか自宅の水まき用のホースを持参してきて、庭の水道に繋いで火を消そうとしてくれている姿を見て、私は「危ないから離れなさい！下がれ！」と叫んでしまいましたが、本当はとても嬉しく、「友達がいいものだなあ」とつくづく実感しました。子供たちにとって見た事がない、燃え盛る大きな炎、とても怖かったはずです。また父が消化器ではとても追い付かず、使用した何本もの消火器を大火の中に投げ込んで、何度も何度もバケツの水で火を消そうとしている姿や、燃えてしまった我が家を放心状態で眺めている姿を、私は一生忘れることはないと思います。父だけ足に火傷を負いましたが、他の家族や火災活動に関わった方々に怪我がなかったことが何よりも幸いでした。被災した事を自慢する事ではありませんが、その経験で火災だけではなく、水害や地震などで被災された方の不安な気持ちや心理状態が理解でき、その方々に寄り添える心を、持てる様になった気がします。

平成14年度と15年度に「岩倉市商工会青年部部長」現在は「岩倉市商工会理事」

市から委嘱を受け「岩倉市スポーツ推進委員(旧:体育指導員)」を25年間、現在は委員長で 丹葉地区の会長 西尾張地区の副会長 愛知県スポーツ推進委員の理事をしております。地域総合型スポーツクラブとして「岩倉スポーツクラブ倶楽部」を平成20年に、副会長として設立に携わり活動を重ね、現在は会長として運営及び会員にスポーツ指導をしております。趣味は海外旅行(大学時代にアメリカ・イギリスと海外研修に行つて依頼はまり)今はコロナになり全く行けていませんが、今までに20ヶ国以上は旅してきました。

そしてキャリアだけは40年の下手なゴルフ(犬山 CC・

東建多度 CC・オールドレイク GC・伊勢大鷲 GC)のメンバー会員であります。スコアは年々悪くなるばかりです。

大学時代の冬季12月～3月だけ4年間山に籠り、志賀高原の横手山スキー場にてアルバイトでコパンブラン・プロスキースクールのインストラクターとしてスキーの指導をしていました。

中学・高校と6年間は卓球部に所属し、どちらも責任のない副キャプテン。同地区には中京・名電・東邦高校が存在する為、大会試合はいつも2回か3回戦負けで、午後からは栄で遊べる、私にとっては都合のいい運動部でした。

少林寺拳法貳段、岩倉道院に15歳から12年間通い、道院長に道場を継がされそうになりかけましたが、現在は頼もしい後輩が引き継いでくれています。その他スポーツの審判資格などを少し取得しております。

私は姉が二人の三人兄弟の末っ子の長男で、住まいは高齢の昭和2年まれ95歳の父、昭和9年生まれ88歳の母、妻の4人で、生まれ育った岩倉市で暮らしております。子供は29歳の娘がひとりだけで、2年前に嫁いでおり、現在は瀬戸市の公立陶生病院の小児科の医師で一児の母でもあります。岩倉 RC はクラブ会員数が少ない事情もあり、2015-2016加藤陽一ガバナー年度と2020-2021岡部努ガバナー年度と、2回のクラブ会長を務めさせて頂きました。私は人が困っていると、どうしてもほっとけない性分で、何においても断ることが特に苦手です。縁あって色々な役職に就かせてもらい、年齢の割には多くの経験をさせて頂き、関わりのあったみなさんや、あきれ果てていた妻・両親・社員には本当に感謝しております。これらの経験が将来に向けて何か人や地域のお役に立てればと、日々考えているうちに、何故か役だけが増えていってしまいました。クラブ会員の皆様の中にも、同じ様な方は多いかと思いません。むしろそんな方々ばかりかもしれません。そんな方々に囲まれて過ごせるクラブ活動が、私の何ものにも代え難い財産であります。



ここからはガバナー補佐の役割としてのお話をさせていただきます。「クラブと地区を結びつけること」が一番の目的・使命だと考えております。

さらには会員の声を聞き、情報やアドバイスをする事「力不足ではありますが」スタッフのみなさんの協力を得て、クラブを成功へと導ける、又はきっかけとなるお手

伝いできれば幸いです。

そしてガバナー補佐としてお伝えすべきことは、

●女性初の国際ロータリー会長でジェニファー・ジョーンズ

RIテーマである「イマジン ロータリー」について

●今年度、籠橋美久ガバナー

地区スローガンについて「未来を描こう、笑顔でつなごう」～一人一人のチャレンジを力に！変化に対応できるクラブを目指して～

最後に地区活動方針・強調事項についてご説明をさせていただきます。

「イマジン ロータリー」

これが、ジェニファー・ジョーンズ会長が、2022年1月に発表した2022-23年度会長テーマです。ジョーンズ氏は、大きな夢を抱き、行動を起こすことをロータリー会員に求めています。「私たちには皆、夢があります。しかし、その実現のために行動するかどうかを決めるのは私たちです。想像してください、私たちがベストを尽くせる世界を。

私たちは毎朝目覚めるとき、その世界に変化をもたらせると知っています」このロゴは、オーストラリアの先住民族でグラフィックデザイナーのリキ・サラム氏(Riki Salam)によってデザインされました。サラム氏は、メルボルンで開催される2023年ロータリー国際大会のロゴも手がけており、視覚的によくわかるよう目に見える形で表現しています。このデザインには、各所に深い意味が込められています。例えば、先住民アボリジニの文化で「円」は互いにつながっていることを意味しており、その周りにある7つの点は「人」をあらわすと同時にロータリーの七つの重点分野を表しています。

ここでもう一度ロータリーの七つの重点分野についておさらいしてみたいと思います。ロータリーの重点分野とは、世界で必要とされるロータリーの7つの人道的な問題を重点的に取り上げるものです。2021年度からは従来の6つの重点分野に加えて「環境」が加わりました。丸と点を一緒にすると、航路を示す星、つまり私たちの進むべき道の道しるべを表しています。その下の太い緑の線は、なんでしょう。これはいわゆる「掘り出し棒」すなわち必要なものを掘り出す道具を表していて、力仕事をするときに使うものだということです。行動を起こす仲間であるロータリー会員にとって、物事を成し遂げるための道具を表しています。

次に、色について申し上げます。ジェニファー・ジョーンズ会長は、公式行事で服装を整える際、テーマジャケットではなく、これらの色(一つでも、三つすべてでも可能)を使うよう2022-23年度ガバナーに要請しています。「多様性、公平さ、インクルージョンを強調していくにあたり、私たち一人ひとりが着るもので自分を表現しながら、つながりを持てるようにしたかった」とジョーンズ氏は説明しています。実は、色の解釈については何通りかあります。その中の一つを例にとりますと、緑は新たに加わった重点分野の「環境」、そして白は私たちの中核的使命である「平和」、紫は「ポリオ根絶」を表しているとしています。

次にイマジンについてです。ジェニファー・ジョーンズ会

長は「想像してみてください」とおっしゃっています。「ポリオのない世界を想像してみてください」「みんなが安全な水を使える世界を想像してみてください」、「疾病のない世界、すべての子どもが読める世界を想像してみてください」、やさしさ、希望、愛、平和を想像してみてください、だからこそ「イマジン ロータリー」がテーマなのですとジェニファー・ジョーンズ会長は呼び掛けています。次に、ジェニファー・ジョーンズ会長は今年度「DEI」の積極的な推進を強調しています。これは地区研修・協議会や PETS でも説明されたことですので重複することも多くあると思いますが、ロータリーの会員基盤を成長させ、インパクトを高めるには、我々会員がロータリーをより多様性・公平さ・インクルージョンのある組織になるよう努力する事が必要であるという事です。少し詳しく説明しますと、ダイバーシティ・多様性とは、年齢・性別・民族・宗教・疾病・障害・国籍・教育等の違いを尊重し、あらゆる背景を持った人を歓迎するということです。エクイティ(Equity)・公平さとはロータリーで言う公平性とは、情報・機会・リソースへのアクセスについて、すべての人に公平な扱いを保証しようとするものです。大事なことは平等(EQUALITY)と公平(EQUITY)とは違うということです。公平さということは下駄をはかせ公平にしようとするということです。関連して、ロータリーで使われるフェロースhipについてです。フェロースhipとフレンドシップは違います。ただ仲良くするフレンドシップと違い、フェロースhipは同じ志をもって共に行動するという事です。

ロータリーで言う「親睦」はフレンドシップではなく、フェロースhipなのです。

次にインクルージョン(Inclusion)についてです。これは、直訳すると包括・包含という意味です。包括は全体をまとめること、包含は大きなまとまりの中に含ませるという意味です。簡単に言うと帰属意識のことです。どのような個人・集団であっても、歓迎され、尊重され、支援され、参加できるようなインクルーシブな環境を作るということです。ダイバーシティとは直訳すると多様性という意味で、ビジネスに当てはめると多様な人材を活かすことです。それに対して企業内すべての従業員が仕事に積極的に参画できる機会を持ち、それぞれの経験や能力、考え方が認められ活かされている状態といえます。多様な人材については人種や国籍、性別、性格、学歴など、幅広い捉え方がされています。それらにとらわれず就業機会を広げる、という意図で使われています。多様な個性を受け入れるだけでなく、個性を尊重して、すべての人が活躍できる環境を整備するのが、インクルージョンの考え方であり、ダイバーシティを実現するための、補完的な概念だと思っています。立場や考え方の違いを超えて、すべての人が平等に活躍できる社会の確立が求められている現在、ビジネスシーンでもインクルージョンの概念は今後さらに注目が集まるでしょう。つまりロータリーの会員基盤を成長させ、インパクトを高めるには、我々会員がロータリーをより多様性・公平さ・インクルージョンのある組織になるよう努力することが必要であると思います。RI会長は、すべての会員がロータリーとの強いつながりを実感できるようにするためには

「会員がクラブに対して心地よさを感じる事、そして、会員への配慮」が必要であるとおっしゃっています。これは冒頭に申し上げました今期のロータリーのテーマにも共通する考えだと思えます。もう一度テーマに戻りますと、ジェニファー・ジョーンズ会長は「想像してみてください」とおっしゃっています。「ポリオのない世界を想像してください」「みんなが安全な水を使える世界を想像してください」「疾病のない世界、すべての子どもが読める世界を想像してください」「やさしさ、希望、愛、平和を想像してください」だからこそ「イマジン ロータリー」がテーマなのですと呼び掛けています。



籠橋ガバナーの地区方針であるスローガン

「未来を描こう、笑顔でつながろう」

～一人一人のチャレンジを力に！変化に対応できるクラブを目指して～

1. 計画的なクラブ運営・活動を行いましょ
- ・クラブセントラルに登録し、定期的な検証を 行い、年間目標の達成を実現しましょ
- ・年間活動計画を明確にクラブ会員に周知し、 奉仕事業を成功させましょ
- ・数値目標を設定し、それに向かって 一丸となって進んで行いましょ
2. 会員の増強をしよう
- ・目標 会員5,000名達成しましょ
- ・女性会員の在籍率を8%に増強しましょ。
- 現在世界での女性会員は25%、日本の女性会員は7.2%(2760地区は6%)であり、ジェンダ－格差を改善して参ります。
- ・若い年齢層の入会を促進させましょ。
3. ゴミ投棄防止運動
- ・自分の街からごみをなくそう
- ・河川の美化を図ろう
- ・海岸の美化を図ろう
- ・生態系を守ろう
- 環境改善事業として、身近な事から活動しよう。特にごみ放棄、海洋マイクロプラスチックの投棄に関するストップ運動を行いましょ。
4. ポリオ根絶への貢献
- ・ポリオ根絶募金活動をロータリー財団中心に実施し、

地域社会へのアピールを行いましょ。

ポリオ(急性灰白髄炎)は非常に感染性の高い病気であり、特に感染しやすいのは5歳未満の子どもです。日本では一般に「小児まひ」と呼ばれることもあります。ポリオウイルスは人から人へ感染し、最も多いのは汚染水を通じた感染です。神経系を侵すこともあり、これによって身体のまひを引き起こす可能性があります。治療法はありませんが、安全なワクチンでの予防が可能です。ロータリーとそのパートナー団体は、これまで世界中25億人以上の子どもたちにワクチンを投与する活動を行ってきました。二年前、ポリオ根絶活動について大きなニュースが世界中に発信されました。2016年にナイジェリアで確認されたのを最後にポリオの感染例は4年間報告されていないため、WHOはアフリカで野生株のポリオウイルスが根絶されたと宣言しました。残された課題はポリオの感染が途絶えたことのないパキスタンとアフガニスタンの根絶です。20世紀半ば、日本でもポリオが大流行した時期がありました。ピークは1960年(昭和35年)で6,500人の発生がありました。この年には160万6,041人が生まれていますので、単純計算約250人に1人が小児麻痺、すなわちポリオを発症しています。しかし、海外から経口ポリオ生ワクチンを緊急輸入し、予防接種をおこなうことで流行は急速に収束していきました。また、ポリオの定期予防接種を強化したことにより、国内では、1980年(昭和55年)を最後に、野性株によるポリオ患者は報告されていません。先ほども説明させていただいたようにパキスタンとアフガニスタンの問題です。戦争の停戦交渉や宗教の問題が壁となっています。ナイジェリアでは、以前、一部の宗教指導者が、ポリオワクチンが不妊の原因になっていると主張していました。それが原因で、子どもにポリオワクチンを接種させない両親がいます。

これらの例でも明らかなように、ポリオは、単なる医療課題ではありません。武装勢力の妨害や宗教的指導者の科学的根拠に基づかない主張によって、ワクチン接種ができない。その結果、本来ワクチンで予防できたはずのポリオの感染が、拡大してしまうのです。ポリオという病気を根絶するためには、停戦交渉や宗教指導者との対話など、医療という枠組みを超えた、政治・外交・社会的働きかけが必要です。「世界からポリオを根絶する、そしてポリオのない世界の実現」という最終目標を達成するために、ポリオ根絶へのご理解と一層の御支援をお願い致します。全世界で、3年間野生株でのポリオ発症ゼロが証明され、WHO(世界保健機関)が根絶宣言をして、世界中でポリオの予防接種を終了することができます。地球上からポリオウイルス根絶が宣言されるまで、全ての国や地域で予防接種を続けなければなりません。各地で計画されたイベント(例えばワールドフード+ふれ愛フェスタ(WFF))にて、地域社会への広報に努め、公共イメージ向上に協力しましょう。

5. 公共イメージ向上

・奉仕活動を地域社会にアピールしましょう

・MY ROTARYの登録の促進を図りましょう

登録率50%を目指

す My ROTARY ではロータリー会員向けの情報やツ

ルをご利用いただけます。

・ホームページの活用を促進しましょう

・地区内各委員会との連携を図りましょう

6. 地区大会 みんなで成功させよう!

開催日:11月12日(土)、13日(日)

名古屋観光ホテル(第1日目)

愛知県国際展示場(第2日目)

7. 第10回ワールド・フード+ふれ愛フェスタ(WFF)開催

WFFの3つの目的

(1)収益金による人道的奉仕活動(ファンドレイジング)

(2)ロータリーの公共イメージ向上

(3)ポリオ根絶に参加

開催日:2023年4月15・16日 場所:エディオン久屋広場

8. 国際大会(メルボルン)へ参加しよう

・2023年5月27日(土)~31日(水)

ガバナーナイトを開催しますので、多くの皆さんの参加をお待ちしています。

お願い事ばかりで大変恐縮です、立場上どうしてもお願いせざるを得ないことばかりです。嫌われることを覚悟でお願いをさせていただきました、どうかよろしく願いいたします。

籠橋ガバナーは、「活動方針の本質は笑顔にある」とおっしゃられています。私たち自身が笑顔を忘れず、一人でも多くの人たちを笑顔にすることが大切です。ロータリーがこれまで蓄積してきた過去の実績を踏まえ、さらに多くの笑顔に溢れた未来を実現していきましょう。そのためには今の時代に即した改革が必要です。過去に学び、未来を想像しながら、近隣クラブやロータリアン同士が知恵を出し合いながら一丸となって活動を進めていきましょう。会員のみなさん積極的な参加をお願いいたします。以上のメッセージをお伝えして私の卓話の結びとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

点 鐘

会長 富永 典夫君

本日の食事



会報掲示板



My ROTARYの登録はこちら

※初めての方は
アカウントを作成してください。
※アカウントがある方は
ログインしてご覧ください。



**ROTARY 2760
アプリダウンロードはこちら**

写真等がございましたら会報までお知らせください
(担当 北畑 祐二)